

令和4年9月三木市教育委員会（定例会）会議録

1 開催日程

- (1) 開 会 令和4年9月16日（金）午後2時00分
(2) 閉 会 令和4年9月16日（金）午後4時00分

2 場 所 三木市役所 5階 大会議室

3 議事日程

- 第 1 会議録署名委員の指名について
第 2 会議録の承認について
第 3 会議の非公開の決定について
第 4 第3号議案 令和3年度の三木市教育委員会の事務の管理及び
執行の状況に関する点検・評価報告書について
第 5 協議事項7 令和3年度における認定こども園及び保育所並び
に放課後児童健全育成（アフタースクール）事業
に係る教育委員会事務局職員による補助執行の市
長への報告について
第 6 報告事項 三木市小中一貫教育推進協議会の開催状況につい
て
第 7 報告事項 各課（室）の所管事項について
第 8 その他
第 9 次回定例会の開催日程について

4 出席者

教 育 長	大 北 由 美
委 員	石 井 ひろ美
委 員	實 井 政 治
委 員	中 嶋 直 裕
委 員	梶 正 義

5 欠席者 なし

6 事務局出席者

教育総務部長	本岡	忠明
教育振興部長	横田	浩一
教育総務課長	森田	真規
教育施設課長	荒田	知宏
生涯学習課長	河端	康
図書館長	伊藤	真紀
文化・スポーツ課長	金井	善純
学校教育課長	田中	智美
教育センター所長	橋本	泰一
学校再編室長	鍋島	健一
教育・保育課長	仲谷	淳
人権推進課長	平井	隆禎
教育総務課係長	三觜	牧恵
教育総務課主事	大野	剛史

7 傍聴者 1人

開 会

教育長が、令和4年9月三木市教育委員会定例会の開会を宣言した。

日程第1 会議録署名委員の指名について

教育長が、三木市教育委員会会議規則第28条の規定により、本日の会議の会議録署名委員に、實井委員と中嶋委員を指名した。

日程第2 会議録の承認について

教育長が、令和4年8月定例会（19日開催）の会議録について委員に諮り、全員一致で承認された。

日程第3 会議の非公開の決定について

教育長が、議事の進行について委員に諮り、公開で審議することを決定した。

日程第4 第3号議案 令和3年度の三木市教育委員会の事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価報告書について

○森田教育総務課長が次のように説明した。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により報告書を作成し、市議会へ提出するとともに、公表することについて、委員会の議決を求める。

6月定例会及び7月定例会で協議いただいた内容を元に修正を行った。主な修正箇所について、点検・評価報告書により順次説明する。

19ページの教育関係費に係る決算数値の年度間比較について、令和3年度の決算見込みを反映させた。

20ページは、三木市の歳出に占める教育関係費の経年比較を掲載し、前年度と比較して、特筆すべき項目については、注釈を記載した。

74ページの外部評価者の評価については、三木市教育委員会の取組に対して、高い評価をいただいた点が多々ある。これらを励みに、今後でも取り組んでいきたい。また、ご意見やご指摘をいただいた点に関しては、貴重な機会と捉え、今一度各所管で点検を行い、改善が必要なものについては早期対応に努めていく。

本日の定例会で、最終のご審議をいただきたい。

(石井委員) 外部評価者の評価の内容を拝見し、定例教育委員会で協議してきた中で、視点として足りない部分についてもご助言をいただいていると思う。

課題点について、令和4年度施策を進めて行く中で、見直しをしていただきたい。例えば、「夢を持っているか」「よいところがあるか」がマイナスになっている部分について、子どもたちの育ちにとっては大事な部分である。同じ気持ちを共有できていると考えるため、目標を同じくしてやっていかなければならないと再認識した。

95ページの就学前教育・保育の充実について、「数値目標について、待機児童数ではなく入所保留児童数が設定されていることについて無理はないのか（令和7年度までに0人という目標が達成可能なのか、どういう根拠か）、事情に不安内な評者の立場からは少し懸念が残った。」と指摘をいただいている。同じく44ページの説明だけで

は、非常に分かりにくいと思う。そのため、もう少し詳しく背景を説明するような記述が必要であると思う。

(横田教育振興部長) 入所保留児童数及び待機児童数については、※1・※2で意図について説明をしている。人数については、0人から31人に修正を行っている。今までの就園率を基に、令和3年度幼保一体化計画の見直しによる令和7年度の目標数値である。※印で同じように児童数の将来推計の説明を追記させていただく。

(森田教育総務課長) 教育委員会で説明を追記したものを評価者に示し、評価の内容に問題がないことを確認した上で、修正を行う。

(石井委員) 45ページの令和4年度の実績の「保護者のニーズと園所の利用定員数のバランスが合うよう、調整を図る。」という漠然とした表現になっている。もう少し丁寧な説明をしていただく必要があると思う。

(森田教育総務課長) 理解していただける記載に修正する。

(梶委員) 三木市の取組として、待機児童数を減らすことだけが目標ではなく、希望する園にできるだけ入園していただきたいという思いで設定している数字であるということを伝えていただき、理解していただきたい。

(横田教育振興部長) 三木市としては、全ての方に希望する園に入所していただきたいという思いがあるため、入所保留児童数を指標としている。このことを追記するかどうかは検討させていただく。

(中嶋委員) 19ページの教育関係費に小学校費、中学校費及び特別支援学校費が令和2年度と比較して減額していることについて記載してある。約4億5千万円すべてが、タブレット端末の配備によるものなのか教えていただきたい。その内、タブレット端末の配備完了による減額はいくらか教えていただきたい。

(森田教育総務課長) 主な減少額について記載した。金額の小さなものはあ

と思うが、現時点では精査できていないため、改めて説明させていただく。

教育長が、第3号議案について採決を行い、一部修正の上可決された。

日程第5 協議事項7 令和3年度における認定こども園及び保育所並びに放課後児童健全育成（アフタースクール）事業に係る教育委員会事務局職員による補助執行の市長への報告について

○仲谷教育・保育課長が次のように説明した。

報告の内容は、市長の権限に属する事務の補助執行に関する規則に定める事務で認定こども園及び保育所並びに放課後児童健全育成（アフタースクール）事業に関することである。

報告の理由については、市長の権限に属する事務の補助執行に係る教育委員会会議での取扱基準第4条で市長に報告することを規定しており、このたび令和3年度の事業実績を報告するものである。

まず認定こども園及び保育所に関することについて説明する。

就学前教育・保育施設の第三者評価については、8施設で実施した。また、監査については、外部の監査専門官及び市担当職員により、市内の就学前教育・保育施設19か所で書面監査を実施し、うち民間認定こども園2施設、公立認定こども園1施設、公立保育所1施設、公立幼稚園3施設に対し、実地監査を実施した。なお、これは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で予定していた時期に実地監査が行えなかったため、令和4年度6月・7月に令和3年度分として実施した施設を含んだ数字である。

評価及び監査の結果については、広報9月号並びにホームページで公表している。

次に、保育者研修について説明する。

保育者の資質向上を図ることにより、教育・保育の質を高め、乳幼児に寄り添った適切な教育・保育を実施するために、保育者合同研修会を1回、保育実践研修会を2回、人権研修部会を1回、特別支援研修会（巡回相談）を28回行った。また、各園所内にて園内研修会を随時開催することで保育者の研鑽を図っている。開催の状況については、記載のとおりである。なお、令和3年度から、コロナ禍への対応のため、従来の交流研修会を保育実践研修会に変更している。

次に、保育事業について主な内容を説明する。

市内保育所・認定こども園等への入所状況については、記載のとおりである。

地域型保育については、保護者の就労又は疾病等の事由により保育が必要と認められた児童について、地域型保育事業所へ入所し、教育・保育を行っている。入所児童数については、記載のとおりである。

公立認定こども園及び公立保育所の管理運営業務については、公立認定こども園及び公立保育所に質の高い教育・保育を実践するための保育教諭、保育士の配置を行い、教育・保育に必要な消耗品及び光熱水費等の管理運営経費に係る事務を行っている。

公立認定こども園及び公立保育所の施設維持管理業務等については、施設の維持管理の他、各園（所）業務に必要な備品購入などを行っている。

公立認定こども園及び公立保育所の給食業務については、公立認定こども園及び公立保育所の給食の献立作成及び栄養管理、食材発注、衛生管理指導、運営経費の事務を行っている。

新型コロナウイルス感染症対策については、新型コロナウイルス感染症の防止を図り、事業の継続を行うため、就学前施設に対して、その対策にかかる経費を支援することで、施設の職員及び児童等の感染予防並びに施設内の消毒作業の徹底を図っている。内容については記載のとおりである。

保育士・幼稚園教諭等処遇改善臨時特例事業については、国の経済対策として、保育士等を対象に、賃上げ効果が継続される取組を行うことを前提に収入を3%程度引き上げるための措置を令和4年2月から実施をしており、公立施設と民間施設の金額については記載のとおりである。

平成27年3月に策定した「三木市幼保一体化計画」について、本市の子ども・子育て施策の充実などにより、就学前児童数が当初計画で見込んでいたことよりも増加していることや、就園希望率が上昇し、希望する園所に入園（所）できない児童が発生する状況となっていることから、見直しを行った。今後は毎年、就学前人口並びに入園希望者数と就園児童数を調査し、必要な利用定員の見直しを行うとともに、3年ごとに全体計画を見直す予定である。

認定こども園及び保育所の課題としては、0・1・2歳児を中心に希望する就学前教育・保育施設への入園を待つ児童が存在するため、引き続き保育教諭を確保することである。各園所に定員の見直しなどの働き

かけを行うこと、民間施設と連携し、就職説明会の開催や高等学校・大学への訪問をすること、修学資金貸与制度や保育教諭人材確保事業等を活用することにより、保育教諭の確保に努める。また、新型コロナウイルス感染症対策においては、感染状況の収束がまだ見込めないことから、引き続き、民間施設に対して感染症対策に従事する職員への手当などのかかり増し経費や消毒・衛生作業に係る物品等の購入費用について助成を行い、安全で清潔な保育環境の維持に取り組む。

放課後児童健全育成（アフタースクール）事業については、昼間、保護者等が労働等により家庭にいない児童を対象に、遊びと生活の場を与え、その児童の健全な育成を図るため、事業の実施計画、施設整備、運営指導、運営管理、従事職員等の労務管理、調査・研究・統計、相談業務及び庶務業務を行っている。受入れについては、市内全ての小学校区が対象である。令和4年3月31日現在のアフタースクールの状況については、記載のとおりである。夏休みが過ぎたころには、低学年が一人で帰れるようになっていたり、家で留守番をできるようになっていたりするため、当初の入所人数よりも減る傾向にある。

アフタースクールにおける新型コロナウイルス感染症対策については、感染症対策に係る経費を支援し、職員及び利用児童等の感染予防並びに施設内の消毒作業の徹底を行っている。内容については、記載のとおりである。

保育士・幼稚園教諭等処遇改善臨時特例事業（アフタースクール）分については、アフタースクール支援員等を対象に、国の経済対策として、賃上げ効果が継続される取組を行うことを前提に収入を3%程度引き上げるための措置を、令和4年2月から実施している。対象は、直営事業所の緑が丘、よかわアフタースクールであり、賃金額については記載のとおりである。

（石井委員）新型コロナウイルス感染症拡大防止事業補助金については、コロナ禍が落ち着いた場合、縮小されるのか。子どもがワクチンを打っていない可能性があり、インフルエンザの感染もある。こういった補助金が継続して出されるのかどうかお聞きしたい。

（仲谷教育・保育課長）国の方針もあり、どうなるか分からないが、通常であれば、コロナ禍が落ち着けばこの補助金は無くなると思う。

(石井委員) 今の子どもたちは消毒やマスクをするのが当たり前になっている。日常生活がマスク無しで過ごせるようになるかもしれないが、消毒などの習慣は継続していくことが良いと思う。限られた予算ではあるが、今後どのように継続していくかを今から考えてほしい。

(梶委員) アフタースクールについて、「夏休みの後に人数が減少する傾向がある。」という説明があり、課題と今後の取組の中に、「高学年児童の待機とその受入態勢の整備について課題が残っている。」という文面があるが、その繋がりをもう少し説明していただきたい。

(仲谷教育・保育課長) 学校にもよるが、施設の広さの関係で、1年生から6年生までの希望者が全て入所できるわけではないのが現状である。基本的には、1年生から4年生までを受け入れている。1年生は、1人で家に帰って留守番をすることが不安であるため、年度当初の入所率はかなり高い。その後、2学期になると1人で留守番ができる等の理由により退所していく。令和3年度は、当初約850人が入所したが、年度末では650人くらいになった。その減少した200人の枠で高学年を受け入れることができればよいが、対応できていないアフタースクールもあり、課題である。

(梶委員) もともとは低学年の子どものための事業だが、高学年でもニーズがある。しかしながら、受入側の体制により、高学年のニーズを満たすところまでは至っていないので、引き続き考えていく必要があるということに理解した。

(大北教育長) 本件は補助執行の案件である。本日の協議を受け、市長へ報告する。

日程第6 報告事項 三木市小中一貫教育推進協議会の開催状況について
○鍋島学校再編室長が次のように説明した。

小中一貫教育について話し合う組織として、6月1日に三木市小中一貫教育推進協議会を発足した。委員は12人である。

第1回については、全ての委員が趣旨を十分に理解されるよう小中一貫教育の必要性や特徴及び施設一体型の学校について説明した。これまでのような6-3制の学校ではなく9年制の学校ということや、同じ施

設で小学生と中学生が過ごすことなど、新しい学校の在り方であることから、出された意見の多くが疑問点であった。

小中一貫教育は、9年間で子どもを支え導いていくという現状よりプラスとなる取組であるため、本来は小中一貫教育への反対意見はほとんどない。しかしながら、施設一体型の学校については、疑問や不安、教員の負担等について多くの意見が出された。このため、これまでの研究内容を説明した。

第2回については、「子どもにつけたい力」について意見交換を行った。「タブレットで正解はすぐ手に入るが、自分で吟味して身につけてほしい。」「コミュニケーションをとるときに、良い伝え方や相手を傷つけない方法を学んでほしい。」「失敗や傷ついた際にそこから立ち上がる力をつけてほしい。」等の意見が出された。後半では、第3回で東条学園の視察を行う予定であったため、施設一体型の学校に対する疑問、質問等を取りまとめた。

第3回については、事前に東条学園の校長に疑問点を伝えていたところ、視察時に丁寧に回答していただいた。その中で印象に残っていること等を紹介する。

まずは学年の区切りについてである。4-3-2制は、義務教育の9年間で4年間、3年間、2年間で区切ることである。子どもの心身の発達は一定ではなく、山があり、子どもたちの発達の特性に対応して学校生活や学校行事を行うのが良いという考えである。保護者から「6年生の活躍の場がなくなるのではないか」という意見が出されることがあるが、4-3-2で区切ることにより、それぞれでリーダーシップが取れるため、1.5倍リーダーシップが取れる。4年生であっても、いろいろな機会を与えると、しっかりリーダーシップが取れるという考え方を校長からいただいた。

ところで、東条学園については、4-3-2の区切りで学校生活をする義務教育学校であるが、前期課程が小学校に当たる6年間、後期課程が中学校に当たる3年間の6-3制の学校でもある。教科指導については、6-3制の影響が大きい。三木市内の学校は、中学校が離れている中で小中一貫教育を実施しているが、離れていても、この4-3-2という子どもの心身の発達の特性は意識しながら教育していくことが、小中一貫教育にとって大切であると考えている。

次に、「同じ校舎に中学生がいて怖くないか」という意見が保護者から寄せられたが、同じ校舎に小中学生が一緒にいる環境こそが、施設一

体型の学校の最大の魅力だと感じている。東条学園でも、学校生活がスタートすると保護者の不安がなくなり、小中一貫教育を好意的にとらえている人が多いとのことであった。

次に、校舎について、委員からは、概ね好意的な意見が出されたが、一方で、便利で機能的な校舎や設備であるため、思考力や個性を育てる工夫がいるのではないかという意見もあった。現地で一番学んだことは、教職員間の共通理解のため、職員室を一つにすることが大切であるということである。

第3回の意見交換会の後半では、三木市全体の学校の校区割についての意見が出た。統合により中学校が6校となったため、6校区が良いという意見や、2つの中学校に分かれて進学する小学校の課題等の意見が出た。推進協議会の内容をまとめた資料は、学校のホームページや公民館での掲示等に加え、10月1日から全戸回覧をする予定である。

(石井委員) 小中一貫教育推進協議会の委員の意見は前向きで、一緒にやっっていこうという思いが紙面から伝わり、非常に嬉しく思う。東条学園では、不登校や特別支援の子どもたちについて、環境が変わることによる良い面や悪い面があったか聞いているか。

(鍋島学校再編室長) 現時点では聞いていない。電話等でいろいろな角度から意見を聴くこととする。

(大北教育長) 9年間繋っていることによって、自己有用感や心の変化があり、学校に復帰できるなどを確認していただきたい。

日程第8 報告事項 各課(室)の所管事項について

(1) 教育施設課報告事項

○荒田教育施設課長が次のように報告した。

広野小学校空調設備更新工事、緑が丘小学校トイレ洋式化改修工事、志染保育所トイレ改修工事及び緑が丘東小学校給食棟屋上防水改修工事は、完了した。

三木東中学校エレベーター設置等工事は、現在校舎内敷地内を行き来する段差を解消するスロープ工事が完成した。

緑が丘小学校土砂災害対策工事については、10月着手予定である。

(2) 生涯学習課報告事項

○河端生涯学習課長が次のように報告した。

細川地域学校の夏のサマースクールを8月28日に細川町公民館で実施した。定員60人に対し、45人の参加があった。廃材等を利用して新たな物を作る取組であるアップサイクルワークショップについては、34人が親子で参加し、マガジンラックを作成した。地域学校については、秋と冬にも実施予定である。

9月19日に自由が丘の敬老会が予定されているが、台風のため開催を検討中である。

(3) 図書館報告事項

○伊藤図書館長が次のように報告した。

9月から図書館定期宅配サービスを開始した。現在の登録者は1人で、現時点では混乱なく宅配サービスを実施している。今後は、様々な機会に宅配サービスを周知し、これまで図書館が利用できなかった一人でも多くの人に図書館サービスを届けていく。

DVD上映会「稲川淳二の超こわい話禁忌領域」を9月11日に吉川図書館で開催し、参加者は9人であった。

9月26日から12月19日まで、8回コースで「製本・図書修理教室」を中央図書館で開催する。一般市民を対象に、図書の修理技術を段階的に学べる講座を実施している図書館は、全国でも珍しく、毎回定員を上回る応募がある。

ぬいぐるみのおとまりかいを10月8日に吉川図書館で開催する予定である。お気に入りのぬいぐるみが夜の図書館で本を読んだりDVDを観たりしている様子を写真に撮り、迎えにきた子どもたちにその様子を伝えながら、ぬいぐるみにちなんだ絵本の紹介をする人気の行事で、毎年開催している。

(4) 文化・スポーツ課報告事項

○金井文化・スポーツ課長が次のように報告した。

9月25日まで企画展をみき歴史資料館で開催している。「三木飛行場の記憶」の展示説明会を9月3日に開催し、25人が参加した。

今後の予定としては、堀光美術館の企画展「木彫と流木オブジェ

福本孝昭「10年の軌跡展」を8月27日から9月19日まで開催している。三木市在住の作家福本孝昭氏の近年10年間の作品展示会である。海岸に流れついた流木に手を加えた作品約60点を展示しており、リピーターも非常に多い。

「郷土の書家 上田桑鳩展～上田家寄贈作品から～」を前期10月1日から30日まで、後期11月5日から11月27日まで堀光美術館で開催する。期間中には、10月9日に特別講演会「桑鳩先生の人と書」を予定している。

みなぎの書道展を10月8日から16日まで吉川総合公園文化体育館で開催する。審査日は9月23日、表彰式は10月16日に行う予定である。出品数は約7800点で、昨年と比較すると600点ほど少なくなっている。原因は、小学生が減少していることや新型コロナウイルス感染症により、作品制作ができなかったことなどである。なお、令和2年度と比較すると、約500点増加している。

(5) 学校教育課報告事項

○田中学校教育課長が次のように報告した。

8月23日に「スマホサミットといじめ・不登校を考えるフォーラム」を三木南交流センターで実施した。

兵庫県立大学環境人間学部の竹内和雄准教授や研究室の学生により実施したアンケートにより、三木市の子どもたちのネット依存率が高い等の結果が出たことを受け、三木市内6中学校の生徒会役員や保護者、教員及び地域住民が、ネットについて考え、意見交換をした。

第6回定例校園長会を9月2日に開催した。

未来を創る学力育成三木モデル事業の進捗状況については、現在までの取組内容の他、成果と課題、今後の取組について報告した。

全国学力・学習状況調査結果の公表方針については、公表のねらいや公表に際しての留意点を説明した。昨年度までは12月に公表していたが、今年度は公表時期を早め、10月25日に記者発表を予定している。

自然学校や修学旅行等の学校行事は、今のところ予定通り実施できている。10月も様々な学校行事が予定されており、新型コロナウイルス感染症の状況にもよるが、中止や延期をすることなく実施できる見込みである。

(中嶋委員) 第6回に校園長会における令和4年度の全国学力・学習状況調査の結果及び公表方針についての協議内容を報告していただきたい。

(田中学校教育課長) どのように公表するかを協議しており、結果については協議していない。各学校において公表するため、市の公表の方針を説明した。

(中嶋委員) それでは、結果については、何月の校園長会で協議するのか。

(田中学校教育課長) 結果については、三木モデル事業において今年度設置している学力向上対策委員会にて協議、分析する。その分析結果は、11月の校園長会で説明する予定である。

(6) 教育センター報告事項

○橋本教育センター所長が次のように報告した。

専門研修講座として記載の内容を実施した。ただし、「学校でSWAYを活用してみよう」については、講師の都合により延期した。現時点では、10月19日に別所小学校で実施する予定である。

教育相談は、教育問題について本人から38件、教員から3件の相談があった。主な内容については、1学期の個人懇談から教育相談に繋がったものや来年度の就学に関する相談等である。

今後の予定としては、指導者用デジタル教科書の活用に関する研修を2回予定している。

青少年センターでは、青少年補導委員第1回管外研修会を8月23日に実施し、10人が神戸地方裁判所にて裁判の傍聴及び見学をした。

ネット見守り隊については、8月及び9月に、大きな事案はなかったと報告を受けた。

人の目の垣根隊意見交換会を3年ぶりに実施した。第1回目は9月6日に別所小学校で行っており、今後順次実施予定である。通学路の草刈りや危険場所の改善について意見が出た。協議内容については、都度関係課と情報共有をしたいと考えている。

(7) 学校再編室報告事項

○鍋島学校再編室長が次のように報告した。

自由が丘中学校区小中一貫教育合同研修会を実施し、説明や協議について相談を受けた。今年度から別所中学校区と吉川中学校区を実践推進校として、研修や取組を進めているところであるが、他の地域についても前向きに進めているところもある。

今後は、10月19日に第4回小中一貫教育推進協議会を開催する予定である。当初から全5回程度ということで進めており、5回又は6回で意見を集約していきたい。

(8) 教育・保育課報告事項

○仲谷教育・保育課長が次のように報告した。

9月10日に就職フェアを行い、参加人数は5人だった。

今後の予定については、9月18日及び19日に令和5年度採用三木市職員採用試験の1次試験として筆記試験並びに実技及び作文試験を実施する予定であったが、台風14号が接近しているため、19日の試験は延期する予定である。延期後の日程は、2次試験の面接を10月23日に実施するため、その間で調整しているところである。

令和5年度アフタースクール入所児童募集を10月3日から実施する予定である。

令和5年度の認定こども園等の入園申込については、10月7日まで受け付ける予定である。

特別教育・保育施設第三者評価については、9月21日、10月3日、10月5日及び10月6日に実施予定である。

日程第9 その他

(石井委員) 「未来を創る学力育成三木モデル事業の保護者用リーフレット」が9月に配付された。大事な内容であり、小中一貫教育についても分かりやすく記載されていたが、子どもが保護者に渡さず、知らないという保護者の意見を聞いた。リーフレットが子どもの鞆からぐちゃぐちゃになって出てきたとの話も聞いた。今後、市教育委員会の方針や子どもたちに関係するようなプリントに関しては、説明をきちんとした上で確実に家庭に届くように配付をお願いしたい。渡すタイミ

ングを考えていただき、渡し方も学校に周知していただきたい。

(田中学校教育課長) 1学期末の懇談の前に各学校に配付し、懇談で配付できれば良かったと思う。学校又は教員により配付方法が違う場合、受け取り方も違うため、受け取った子どもがどれぐらい重みのあるものとして持ち帰るのが違ってくるだろう。保護者リーフレットについては、改訂版を作成し、配付したいと考えているため、その際は懇談に合わせて配付できるようにしたい。

(石井委員) 是非そのようにしていただき、確実に保護者の手に渡るようにお願いしたい。また、渡す際に、保護者からの質問に答えられるよう、担任や教頭などとの共有もしっかりしていただきたい。

(田中学校教育課長) 教職員用リーフレットも作成しており、指導主事が全ての学校へ行き、教員に直接説明した。このため、三木モデルの内容については理解が進んでいると考えている。今後も、教員に丁寧に直接伝えた方が良い内容については、この手段をとろうと思っている。

(中嶋委員) 同意見である。このリーフレットだけでなく、保護者への発信力に課題があると思うので、その認識を全員がもって対応を進めていただきたい。

(大北教育長) 保護者向けに配付する日を指定していないので、配付した日は学校ごとに異なるだろう。また、どのように配付したかについては聞いていないが、次回以降は気を付けていきたい。今回は紙を渡しているが、渡したことについて学校からメールを配信しているのか。

(田中学校教育課長) 調べた訳ではないが、おそらく配信していない学校の方が多いのではないかと思う。

(大北教育長) 子どもたちがどのような渡し方をするかはそれぞれ異なるため、大事なものを配付した時は、メールも一緒に送信し保護者へ渡すようにすることも大事だと感じた。今後工夫していきたい。

(田中学校教育課長) デジタル化が進んでいるため、当初はこの保護者用リーフレットもデータをメールで配信しようかと考えていた。ただ、やはり重みを持たせたいということで紙で配付したのだが、紙であれば渡さない子どもが出てくる。データで送れば、保護者のスマートフォンに配信され、確実に見てもらえるので、データの方が良いのではないかという意見もあった。その辺りについてご意見をいただきたい。

(石井委員) その学校の発信方法によるが、できれば両方していただきたい。例えば、ある中学校では、メールに重要という赤い印が付くため目を引き、区別が付く。しかし、度々メールを配信する学校では、保護者はまたか、という思いになる。難しいと思うが、必ず見ていただきたいものには印をつけていただく。一方で、子どもには、本当に大事なプリントなので必ず渡してほしいとメッセージを添えていただく。当分は大変だと思うが、両方していただきたい。そうしながら、学校でやり方を固めていただきたい。

今はすぐーるというアプリが入って便利になったが、スマートフォンにはメールがたくさん来る。保護者がメールを取捨選択する中で、また学校からか、となつてはいけないと思う。本当に重要である内容にはメッセージも添えていただくことが大事だと思う。

(大北教育長) すでに紙で配付しているが、今からデータを送ることができるか検討する。

(石井委員) メール「重要」というマークは学校で統一されているのか。

(田中学校教育課長) 教育委員会から保護者に一斉送信する場合は、統一で同じものを送る。各学校が送る場合は、各学校がタイトルを付けているため、全ての学校でタイトルに重要と付けているかは分からないが、重要なものについては分かるよう工夫していると思う。

(石井委員) 重要とするかは学校の判断であれば、ばらつきが出てくるように思う。また、よろしくお願ひしたい。

(中嶋委員) メールは一方通行なのか。返信はできないのか。

(石井委員) 「見ました」という確認ボタンを押すようになっている。

(中嶋委員) その際に、保護者がどのような形で受け取ったかコメントを加えていただけると認知度が高まるように思う。

(大北教育長) メールは一方通行であるが、何らかの形でどのように受け取られたか知りたいところではある。

(中嶋委員) 後日アンケートを取るのはいかがか。

(石井委員) アンケートとなると、膨大な量の意見が出てくるように思う。

(大北教育長) 三木モデルについては、まだ始まったところである。どのくらい浸透したかや保護者の受け取り方、子どもが変わったかどうかなど、学力向上を検証する際にはアンケートを取ることも大切だと考えるため、その際に保護者の意見を聞くことができればよいと思う。発信の仕方についても検討したいと思う。他にご意見はないか。

(梶委員) 保育教諭について、三木市に来ていただける手ごたえがあるのか、現時点での状況を教えてほしい。

(仲谷教育・保育課長) 公立については、9月の採用試験で5人が受験する。民間については、就職フェアを5月に神戸国際会館で、7月10日と9月10日は市民活動センターでそれぞれ実施した。5人程度で、それ以上の申込みはない。来場者に聞くと、神戸市等の街で就職したいであるとか、家を出て一人暮らしをしたいという意見があった。

(梶委員) 三木市在住の人が家を出るといふことか。

(仲谷教育・保育課長) 三木市在住でない人、例えば小野市の人就職フェアに来ることもある。しかしながら、三木市だと家から近く、家を出られないため、神戸市へ行くようである。就職フェアに来られた人には、就学資金貸与制度や保育教諭のたまごたち体験事業を紹介している。体験に来られることはあるが、そもそも就職フェアへの参加者

を増やすことが課題である。

(梶委員) 希望者も少し減っているのかもしれない。採用試験を受ける5人や体験事業の体験者には三木市のセールスポイントを説明し、積極的に来ていただく。環境や人間関係も影響するかもしれないので、色々な作戦で来ていただきたいと思う。

(大北教育長) 大学や高校を回って周知し、どうしたら来ていただけるかも研究してきたが、全部で5人なのか。

(仲谷教育・保育課長) 9月10日の就職フェアで参加者は5人、7月は6人であった。5月に国際会館で実施したときは、20人近くが参加された。場所や時期についても検討する必要がある。

(梶委員) 各園には、実習に来ているのか。その実習から就職に繋がることはあるのか。

(仲谷教育・保育課長) 実習にきており、就職に繋がることもある。

(梶委員) 実習園での実習が、良い体験に繋がるようなものになればと思う。

日程第9 次回定例会の開催日程について

教育長が、次回の教育委員会定例会の開催について諮り、令和4年10月21日午後2時から開催することを決定した。

閉 会

教育長が、令和4年9月三木市教育委員会定例会の閉会を宣言した。

【令和4年9月三木市教育委員会定例会会議録】

教育長

署名委員

署名委員

記録者